

絵馬に見る世論

Public Opinion in Votive Picture Tablets "Ema" in Shinto Shrines

間淵 領吾*

Ryogo Mabuchi

1. 研究の目的と経過

人々の社会意識を把握する方法には、様々な手段が考えられる。その主なものは世論調査であり、質問紙を用いたもの、電話調査、インターネットを利用した調査などがある。質問紙による面接調査や電話調査の場合は、調査員が回答者と会話しつつ調査をするため、プライバシーに関わる微妙な問題を本音で回答してもらうのは、困難が伴う。また、インターネット調査の場合、インターネットにアクセスできない対象者の意識は、把握することができないという問題がある。これらの調査のほかに、新聞や雑誌への投稿記事を通じて、人々の社会意識を究明するという可能性もある。筆者は、総合研究所研究助成や科研費により、投稿記事についての研究を進行中である。しかし、投稿記事の場合、編集者による採否や編集が介在するという難点もある。他方、神社等に奉納されている絵馬は、誰もが願いや悩み等を書き記すことが可能であり、世論調査などでは吐露されない個人的事情なども多く記入されている。これらの特徴により、絵馬を通じて、世論調査では明らかにしにくい意識の究明を目指すことを目的とする。

2. 研究の概要

2-1. 調査対象

春日大社等、奈良県内の神社等に奉納されている絵馬を中心に、その他の都府県の神社等の絵馬をも比較対象とする。

2-2. 調査・研究の方法

各地の絵馬をデジタル・カメラによって撮影し、そこに記された文字データをデジタル化し、総合研究所研究助成ならびに科研費による研究で培った質的データ分析技法により、分析・研

究する。具体的には、絵馬の文字情報を自由回答と見做し、自由回答コーディング支援ソフト Autocode等を利用して、計量分析が可能なデータにコーディングしてゆき、多変量解析ソフトによって分析する。

なお、単に絵馬のデータを分析するだけでなく、世論調査によって調査された悩み・不安・希望・満足度などと、絵馬データとを比較することで、絵馬研究と通常の世論調査との相違点と共通点を明確にすることを旨とする。

また、絵馬研究の長所と短所を解明し、あわせて、通常の世論調査の問題点についても検討する。

2-3. 研究成果

調査は、奈良の春日大社（本殿・一言主神社・夫婦大黒社）、京都の平安神宮・八坂神社、東京の明治神宮で実施した。なお、京都の北野天満宮においても実施を計画したが、趣旨説明にもかかわらず許可を得られなかったために調査を断念した。

ここでは、スペースの関係等により、春日大社における調査結果の一部を紹介し、詳細な分析結果は、後日公刊される予定の論文に譲る。

春日大社に奉納されている絵馬1,219枚に書かれた文言に基づいて、人々の抱く悩みや願いを分類した。祈願内容による集計結果は表1、祈願対象による集計結果は表2のとおりである。

1枚の絵馬に複数の祈願が記入されているものがあるため、表1の総数は1,390件となっている。祈願内容は、に着目すると、「健康祈願」が最も多く、絵馬総数1,219枚に占める比率は30.0%である。以下、「家庭円満」14.9%、「結婚」11.9%、「幸福」11.8%が1割台で続いている。その他に「仕事・職業」「出産」「恋愛」「就職」「金銭獲得」「学業」「上達」「夫婦」「持家」「ダイエット」「安全」「借金返済」「平和」「交通安全」「厄除け」「安楽死」「応援」が少数ながら存在する。

個々の内容まで紹介する余裕がないために割愛せざるを得ないが、通常の世論調査では到底知ることができない高度にプライベートな事情（たとえば、「健康祈願」については具体的な病名など）を知りうることを判明した。

表2から、絵馬記入者が誰・何に対する祈願をしたのかを読み取ることができる。最も多いのは「自分」であり、全体の61.0%を占めている。これに次いで多いのが「家族・恋人」を対象とした絵馬であり、31.2%であった。その他には、「皆」「所属集団（たとえば、所属する余暇サークルやスポーツグループなど）」「友人・知人・同僚」「地域社会・国・世界」から「ペット」にいたる対象が判明した。

記入者の名前から推測した性別と、祈願対象を記入者本人（表2の「自分」）かそれ以外かとしたクロス集計をおこなったところ、Pearsonのカイ2乗検定の結果、1%未満で有意との結果を得た（自由度1、カイ2乗検定統計量6.73738）。男女差は特に大きくはないものの、男性は「自分」に関して祈願する者が多数を占めるのに対し、女性は「自分以外」（その大部分は「家族・恋人」である）に関して祈願する者の比率が男性より多いと言える。

また、記入者の推定された性別と祈願内容のクロス集計から、男性の場合、「合格」「就職」「仕事・職業」「金銭獲得」については女性より多く、「恋愛」「結婚」「出産」については女性より少ないことも明らかになった（集計表省略）。伝統的性別役割分業意識が絵馬にも反映されていることが読み取れる。

表1 祈願内容

変数	件数	Pct of Responses	Pct of Cases
健康	335	24.1	30.0
合格	175	12.6	15.7
家庭円満	166	11.9	14.9
結婚	133	9.6	11.9
幸福	132	9.5	11.8
仕事・職業	98	7.1	8.1
出産	84	6.0	7.5
恋愛	73	5.3	6.5
就職	52	3.7	4.7
金銭獲得	36	2.6	3.2
学業	30	2.2	2.7
上達	24	1.7	2.2
夫婦持家	14	1.0	1.3
ダイエット	9	.6	.8
安全	8	.6	.7
借金返済	6	.4	.5
平和	4	.3	.4
交通安全	4	.3	.4
厄除け	3	.2	.3
安楽死	2	.1	.2
応援	1	.1	.1
計	1390	100.0	124.6

103 missing cases; 1,116 valid cases (91.6%)

表2 祈願対象

変数	件数	Pct of Responses	Pct of Cases
自分	744	58.8	61.0
家族・恋人	380	30.0	31.2
皆	48	3.8	3.9
所属集団	20	1.6	1.6
友人・知人・同僚	7	.6	.6
地域社会・国・世界	4	.3	.3
ペット	3	.2	.2
その他	2	.2	.2
不明	57	4.5	4.7
計	1265	100.0	103.8

0 missing cases; 1,219 valid cases

表3 性別と祈願対象のクロス集計表

性別	Count Row Pct	Count		Row Total
		他者 0	本人 1	
男性	1	94 28.7	233 71.3	327 34.2
女性	2	234 37.1	396 62.9	630 65.8
Column Total		328 34.3	629 65.7	957 100.0

3. 結 論

人々の悩みや願いを世論調査によって把握しようとする試みは多々あるが、調査対象者は、必ずしも全てをつつみかくさずに吐露してくれるとは限らない。切実な悩みや願いであればあるほど、回答されにくいだろう。絵馬には、世論調査であれば回答しそうなない極めて私的な事柄が記入されており、これを分析することによって、人々の意識の本音を把握することが可能と考えられる。

研究成果等

1. 学会口頭発表

間淵領吾、2001、「絵馬に見る日本人の願い事の諸類型—春日大社の事例」日本行動計量学会第

29回大会・特別セッション「社会学におけるクラスター分析とMDSの応用」(於甲子園大学)。

2. 新聞記事

「絵馬の願い事：自分本位の男性／他人思いやる女性：奈良大学社会学部研究室が調査」産経新聞（関西版）社会面（2001年12月30日）。

以上